

26日 水曜

使徒

15:1 さて、ある人々がユダヤから下って来て、兄弟たちに「モーセの慣習にしたがって割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と教えていた。

15:2 それで、パウロやバルナバと彼らの間に激しい対立と論争が生じたので、パウロとバルナバ、そのほかの何人かが、この問題について使徒たちや長老たちと話し合うために、エルサレムに上ることになった。

15:3 こうして彼らは教会の人々に送り出され、フェニキアとサマリアを通して行った。道々、異邦人の回心について詳しく伝えたので、すべての兄弟たちに大きな喜びをもたらした。

15:4 エルサレムに着くと、彼らは教会の人々と使徒たちと長老たちに迎えられた。それで、神が彼らとともにいて行われたことをすべて報告した。

15:5 ところが、パリサイ派の者で信者になった人たちが立ち上がり、「異邦人にも割礼を受けさせ、モーセの律法を守るように命じるべきである」と言った。

15:6 そこで使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。

15:7 多くの論争があった後、ペテロが立って彼らに言った。「兄弟たち。ご存じのとおり、神は以前にあなたがたの中から私をお選びになり、異邦人が私の口から福音のことばを聞いて信じるようにされました。

15:8 そして、人の心をご存じである神は、私たちに与えられたのと同じように、異邦人にも聖霊を与えて、彼らのために証しをされました。

15:9 私たちと彼らの間に何の差別もつけず、



彼らの心を信仰によってきよめてくださったのです。

15:10 そうであるなら、なぜ今あなたがたは、私たちの先祖たちも私たちも負いきれなかったくびきを、あの弟子たちの首に掛けて、神を試みるのですか。

15:11 私たちは、主イエスの恵みによって救われると信じていますが、あの人たちも同じなのです。」

律法による救いでは誰も救われず、十字架の恵みによって救いを与えてくださるというのは、神様の御心であって避けられない流れです。しかしそれまで古い価値観で生きて来た人々も含めて全体が一致して動き出すには、時間と労力が必要なものです。その過渡期を教会がどのようにして乗り越えたかが、ここに記されています。

第一には「激しい対立や論争が生じ」ても、それを敗北とは考えないで、むしろそれを前進の糧としたことです。きっとその論争は個人的な感情ではなく、主のための純粋なものであったからでしょう。

第二には神みわざを分かち合ったことです。「大きな喜びをもたらした」とあります。自論に固執したり、論争相手を批判したりすることからは何も生まれません。むしろ良きところに目を留めることによって神の導きが分かってきます。

第三には主にある兄弟たちが（ときには姉妹も）十分に話し合うということです。「この問題を検討するために集まった」とあります。忙しいとか疲れるなどという理由で人任せにするのではなく、また自分のプライドや自己流の解釈を通すためでもなく、ただ主の尊いみわざが進むために集まるのです。そのような献身的な人がどれほどいるか…が問われます。

そのようにして最後はペテロを通して主の御心が語られます。それはまさに十字架にある主の思

いそのものです。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

